

<病理診断科>

一般（教育）目標

病理診断学を学ぶことにより、興味のある領域を中心に個々の疾患や病態の理解を深める

（具体的）行動目標

(1) 基本姿勢

- ・臨床医に必要な診断病理学の基礎知識と技能を、自らの実施、経験することによって習得する

(2) 手技

- ・術中迅速組織診と手術検体の切り出し、病理解剖などを通して肉眼観察、肉眼診断に必要な知識と技能を習得する

(3) 病理診断

- ・病理組織標本（プレパラート）を鏡検し、上級医の指導のもとで診断報告書を作成する
- ・臨床病理カンファレンスにおいて症例提示を行い、病理所見を説明する

学習方略（1）

- (1) 興味のある領域を手始めに、各臓器の組織学を学び直す
- (2) 臨床医として担当した患者の既往生検あるいは手術標本を自ら検鏡する
- (3) 術中迅速組織診を上級医の指導のもとに自ら行い、診断やその限界について学ぶ
- (4) 手術検体の適切な取扱い、固定と切り出しを上級医の指導のもとで行う
- (5) 病理診断における臨床情報の重要性を理解するとともに、切り出しが病理診断の一つの過程であることを理解する
- (6) 生検・手術検体の病理診断報告書を上級医の指導のもとで自ら作成する
- (7) 病理診断に必要な免疫組織化学や分子病理学的知識について学び、自ら実施し、結果を評価する
- (8) 病理解剖を上級医とともに実施し、肉眼観察、肉眼診断を行う
- (9) 病理診断業務におけるリスク管理・コンサルテーションの重要性を学ぶ

学習方略（2）勉強会・カンファレンス・学会など

- (1) 適切な剖検症例（研修中に自ら担当した症例や興味のある臨床科の症例など）を1例選択し、臨床的相関と考察を加えた病理解剖診断報告書を作成する
- (2) 剖検症例検討会/臨床病理検討会(PMC/CPC)で病理担当として症例提示を行い、病理所見と病理診断を解説する
- (3) 学会・研修会・セミナーに積極的に参加する

週間予定

	月	火	水	木	金
午前	迅速組織診 手術検体切り出し 病理診断報告書作成 剖検				
午後	迅速組織診 手術検体切り出し 病理診断報告書作成 剖検				
カンファレンス	乳腺 (週1回)		内視鏡(月1回) 婦人科(月1回) 呼吸器(週1回) 泌尿器(週1回) 病理診断(月2回) 抄読会(月1回) 研究ミーティング (月1回)	腎生検 (月1回) 肝胆膵 (月1回)	剖検症例検討会 臨床病理検討会 (PMC/CPC) (月1回)

EV 評価

PG-EPOC による評価方法 (研修医⇔指導医)

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、PG-EPOC 評価システムに入力をする事